

幻野遊行

阿久根靖夫

背後に虹が消えた

瞳は夢に野を駆ける母達の幻を追い

月役！ 滴る血潮に芽生える幼年の暴力
不定称の代名詞で母を呼び夜を越えた

まもなく月明！ 確かに

遙かに駆けぬけてきた読経の群に

おくれたえだえの胎児一束

死装束で曙を越えた

萎びた骨と腐肉を両手に抱え

歩く優しさの果て今日も月明

ひとすじの川を往き還り

母の国夢にみた戦いの地はどこ

中空に吊るされて歩む鳥の

喘ぐ唇にあえかに紅をさし

そうそうと風燃えてまたも月明

皓齒光る母の基の地を皺め

佇つ！

誰も許さぬ